史跡斎宮跡

平成27年度現状変更緊急発掘調查報告

平成29(2017)年3月

明 和 町

史跡公園「さいくう平安の杜」も開園から1年半近くが経ちました。その間に様々なイベントで活用され、多くの来園者を迎えております。明和町では、平成25年度からその周辺整備を行っており、来訪者の方に満足いただけるような環境整備を進めてきました。

この3月19日には、これら環境整備の核となる「いつきのみや地域交流センター」が竣工いたします。この施設は、斎宮跡をより多くの方に知っていただくとともに、地域の方々が来訪者の方をおもてなしし、互いに交流しあえるような施設になることを目指しています。今後は「いつきのみや地域交流センター」と隣接する「明和町観光案内所」とともに、町全体の観光情報を町内外や国外に向けて、これまで以上に積極的な情報発信を行っていく所存です。

観光政策も、訪日外国人を対象にした事業が全国的に進められており、斎宮跡でも昨年12月に、英語、中国語、韓国語での案内が可能で、平安時代の斎宮を体感できる「斎宮VR(バーチャルリアリティ)」が完成しました。また、史跡公園全体で来訪者にインターネット環境を提供できるよう、無料Wi-Fiも整備しました。これらの事業を総合的に発信することによって、更なる史跡の活用と町の活性化につなげていかなければならないと考えています。

さて、本報告書は史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった15件の結果についてまとめたもので、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力いただきました斎宮歴史博物館調査研究課の方々に厚くお礼申し上げます

平成29 (2017) 年 3 月

三重県多気郡明和町 町長 中 井 幸 充

例 言

- 1 本書は、平成27 (2015) 年度に明和町が実施した史跡斎宮跡(三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区)の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第185-1・3・4・7・10・12・13次調査は事業者が費用負担したが、それ以外については、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法(例:6AL13)については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』(斎宮歴史博物館 2003)による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当 する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告 I 』(2001) を基準とした。
- 7 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。

 SA:柱列・塀
 SB:掘立柱建物
 SD:溝
 SE:井戸
 SF:道路

 SK:土坑
 SH:竪穴住居
 SZ:落ち込み等
 SX:墓・不明遺構

- 8 調査箇所が複数になる場合は、1T(トレンチ)などと調査区を呼称している。
- 9 図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 10 本書の執筆は、宮原佑治(斎宮歴史博物館)が前言・調査報告を、乾哲也(明和町斎宮跡・文化観光課)が付編の執筆を行い、編集は宮原・乾が担当した。

目 次

Ι	Ē	前言	1	8	第185-8次調査	9
Π	Ħ	調査報告		9	第185-9次調査	0
	1	第185-1次調査	3	10	第185-10次調査 1	0
	2	第185-2次調査	4	11	第185-11次調査 1	1
	3	第185-3次調査	4	12	第185-12次調査 1	13
	4	第185-4次調査	6	13	第185-13次調査 1	4
	5	第185-5次調査	7	14	第185-14次調査 1	15
	6	第185-6次調査	8	15	第185-15次調査 1	16
	7	第185-7次調査	9	付編	扁 史跡現状変更等許可申請	Ç

表・挿図目次

第1表	史跡現状変更等許可申請の推移	第4表	第185次調査 出土遺物観察表 2
第2表	第185次調查 遺構一覧表	第5表	平成27年度史跡現状変更等許可申請一覧表
第3表	第185次調査 出土遺物観察表 1		
第1図	発掘調査地位置図	第23図	第185-8次調査 遺物実測図
第2図	第185-1次調査区位置図	第24図	第185-8次調査 遺構平面図・断面図
第3図	第185-1次調査 遺物実測図	第25図	第185-9次調査区位置図
第4図	第185-1次調査 遺構平面図・断面図	第26図	第185-9次調査 遺構平面図・断面図
第5図	第185-2次調査区位置図	第27図	第185-10次調査区位置図
第6図	第185-2次調査 遺構平面図・断面図	第28図	第185-10次調査 遺構平面図・断面図
第7図	第185-3次調査区位置図	第29図	第185-10次調査 遺物実測図
第8図	第185-3次調查 遺構平面図	第30図	第185-11次調査区位置図
第9図	第185-3次調查 遺構断面図	第31図	第185-11次調査 遺構平面図・断面図
第10図	第185-3次調査 遺物実測図	第32図	第185-11次調査 遺物実測図
第11図	第185-4次調査区位置図	第33図	第185-12次調査区位置図
第12図	第185-4次調査 遺構平面図・断面図	第34図	第185-12次調査 遺構断面図
第13図	第185-4次調査 遺物実測図	第35図	第185-13次調査区位置図
第14図	第185-5次調査区位置図	第36図	第185-13次調査 遺構平面図・断面図
第15図	第185-5次調査 遺物実測図	第37図	第185-13次調査 遺物実測図
第16図	第185-5次調査 遺構平面図・断面図	第38図	第185-14次調査区位置図
第17図	第185-6次調査区位置図	第39図	第185-14次調査 遺物実測図
第18図	第185-6次調査 遺物実測図	第40図	第185-14次調査 遺構平面図・断面図
第19図	第185-6次調査 遺構平面図・断面図	第41図	第185-15次調查区位置図
第20図	第185-7次調査区位置図	第42図	第185-15次調査 遺構平面図・断面図
第21図	第185-7次調査 遺構平面図	第43図	第185-15次調査 遺物実測図
第22図	第185-8次調査区位置図		

写真図版

写真図版1	第185-1次調査	1T北西(東から)	写真図版17	第185-8次調査 SK10820(北から)
写真図版2	第185-1次調査	2 T南西(東から)	写真図版18	第185-9次調査 中央部全景 (西から)
写真図版3	第185-2次調査	1T全景(西から)	写真図版19	第185-10次調査 2 T全景 (西から)
写真図版4	第185-2次調査	4 T全景(西から)	写真図版20	第185-10次調査 6 T全景 (西から)
写真図版5	第185-2次調査	6 T全景 (西から)	写真図版21	第185-11次調査 SA10821 (西から)
写真図版6	第185-3次調査	1T東側全景(西から)	写真図版22	第185-11次調査 2 T全景 (南から)
写真図版7	第185-3次調査	3 T全景 (北から)	写真図版23	第185-11次調査 SA10821柱穴1断面(南から)
写真図版8	第185-4次調査	1 T全景 (南から)	写真図版24	第185-11次調査 SA10821柱穴2断面(西から)
写真図版9	第185-4次調査	1T出土状況(東から)	写真図版25	第185-11次調査 SA10821柱穴3検出状況(西から)
写真図版10	第185-4次調査	2 T全景 (南から)	写真図版26	第185-11次調査 3 T全景 (東から)
写真図版11	第185-7次調査	2T南側全景(東から)	写真図版27	第185-13次調査 1 T全景 (南から)
写真図版12	第185-5次調査	1T西側全景(南から)	写真図版28	第185-13次調査 2 T全景 (南から)
写真図版13	第185-5次調査	2 T全景 (南から)	写真図版29	第185-14次調査 全景 (北から)
写真図版14	第185-6次調査	2 T全景 (南から)	写真図版30	第185-14次調査 溝群 (南から)
写真図版15	第185-6次調査	5 T全景(南から)	写真図版31	第185-15次調査 全景 (北から)
写真図版16	第185-8次調査	北側全景(北から)		

I 前言

史跡斎宮跡では、平成27年度に58件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40~50件程度で推移してきており、今年度も同様の傾向が窺える。

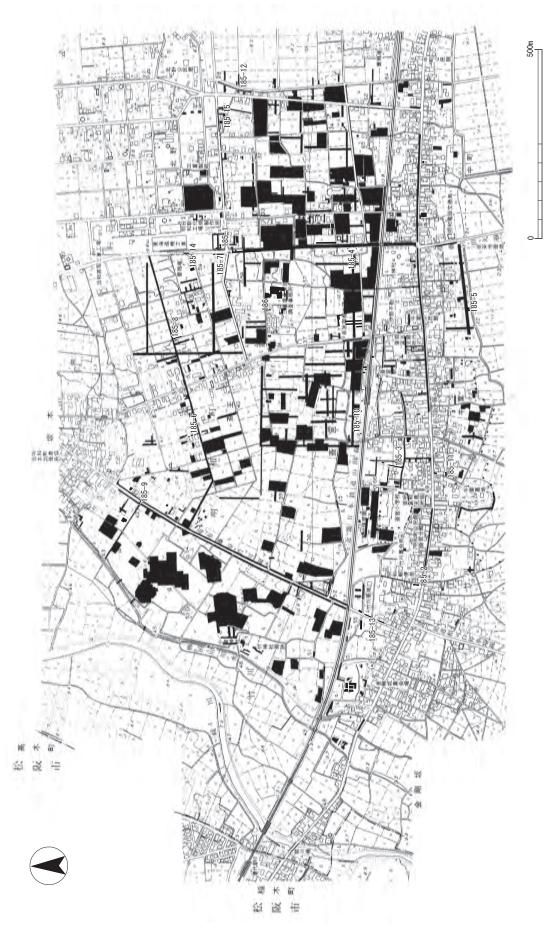
内訳をみると、個人住宅の新築や改築、小学校のプール移転、下水管の埋設、排水路の改修、道路側溝の付け替えといった史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による史跡維持管理倉庫の建設などの歴史的風致維持向上計画(以下、歴まち事業)に伴う事前の発掘調査等があった。このうち、発掘調査が必要となった案件は15件で、調査面積の合計は352.5㎡である。

第185 $-2 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 8 \cdot 9 \cdot 11 \cdot 14 \cdot 15$ 次は個人住宅の新築・改築などに伴うもので、建物の基礎や水道管の埋設などに伴って調査を行なった。第185 -3 次は小学校のプール移転に伴い、第185 -13次は県道の側溝の付け替えに伴い、それぞれ調査を行った。第185 $-1 \cdot 4 \cdot 7 \cdot 10 \cdot 12$ 次は歴まち事業に伴い、地下遺構の実態を把握するために、54.4㎡の調査を行った。

平成27年度の史跡現状変更に伴う調査は、個人住宅の新築・改築を主に、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護に係るデータの蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって貴重な成果となった。 (宮原佑治)

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積(m²)	うち補助金調査件数	同調査面積(m²)
昭和 54	33	17	3, 968	12	996
55	60	12	1, 281	10	815
56	53	12	5, 416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3, 757	10	1, 440
59	30	15	2, 884	12	1, 589
60	39	8	1, 260	5	1, 014
61	54	12	1, 845	9	1, 507
62	57	16	2, 854	13	1,620
63	46	17	8, 820	7	1, 131
平成 元	57	16	7, 091	9	1,061
2	58	8	1, 397	5	914
3	46	3	1,550	1	1, 190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1, 360	4	1, 032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1, 558	8	1, 124
16	43	24	2, 372	7	762
17	31	14	3, 002	8	338
18	31	13	2, 171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448. 2	13	448. 2
23	43	13	1, 070. 7	10	223. 8
24	35	8	1, 899. 2	6	91
25	44	17	640. 7	12	370
26	41	16	868	9	555. 8
27	58	15	352. 5	8	198
計	1,650	427	68, 025. 3	262	25, 716. 9

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移



第1図 発掘調査地位置図(1:10,000)

Ⅱ 調査報告

1 第185-1次調査(6AR7)

調查場所 多気郡明和町大字斎宮字西前沖

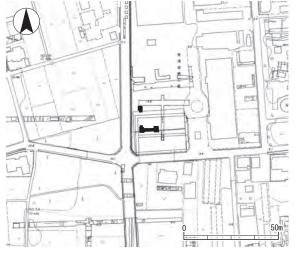
2604番49

原 因 休憩所建設等

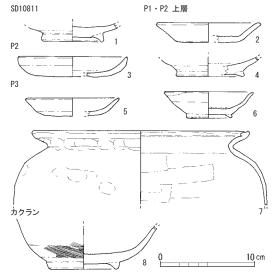
調査期間 平成27年7月13日~14日

調査面積 23.2m²

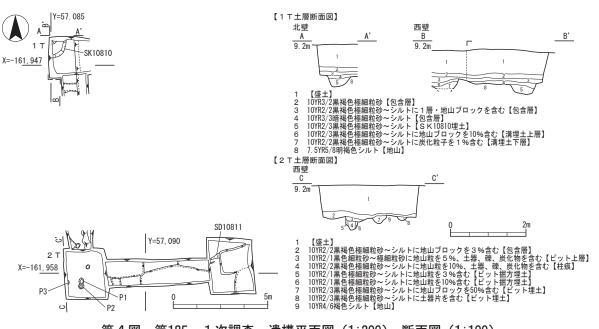
調査概要 明和町の歴史的風致維持向上計画にかか る事業の一環として行われた史跡斎宮跡維持管理倉 庫等建設工事について、立会を行ったところ、遺構 を確認したため実施した発掘調査である。調査地は 史跡中央部東に位置する。トレンチは南北2箇所で、 遺構面は地表下0.8m~0.9mで検出した。SK10810 は1Tの北西隅に確認した土坑で、調査区外に続く。 遺物は古代の土師器片が出土した。SD10811は2 Tの東側に確認した溝状遺構で、大部分が攪乱によ り失われている。遺物は斎宮編年Ⅲ-2期の陶器山 茶椀(1)が出土した。その他、2 Tの西側のピッ トから、斎宮編年Ⅲ-2期のロクロ土師器杯(2) がP1・P2の上層で、同時期の土師器杯(3)や 陶器山茶碗(4)がP2の下層で出土している。P 3からは、斎宮編年Ⅲ-4期~Ⅳ-1期の土師器杯 (5)、鍋(7)や陶器山茶椀(6)が出土した。 また、2 Tの東の攪乱から陶器山茶碗(8)が出土 した。



第2図 第185-1次調査区位置図 (1:2000)



第3図 第185-1次調査 遺物実測図(1:4)



第4図 第185-1次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

2 第185-2次調査(6AJ12)

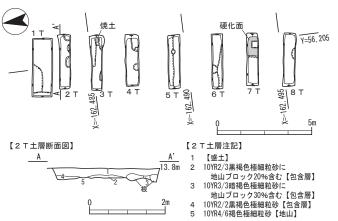
調查場所 多気郡明和町大字竹川字東裏276番

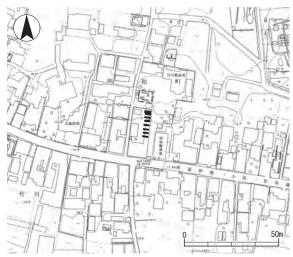
原 因 住宅改築

調査期間 平成27年9月24日~30日

調査面積 12m²

調査概要 住宅の改築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南部の旧参宮街道沿いに位置する住宅地である。1T~8Tの8箇所の溝状トレンチに分かれている。遺構面は、地表から約0.3m(標高13.5m)の地山上層面で検出を行い、主要な遺構





第5図 第185-2次調査区位置図(1:2000)

として土坑や溝、ピットを確認した。その他、硬化した地山面や焼土塊も確認したが、いずれも近世以降の遺物を伴うものであった。 遺物は近世以降の土師器焙烙や陶磁器皿、椀、擂鉢、軒平瓦などが出土した。

第6図 第185-2次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

3 第185-3次調査(6AL・M12)

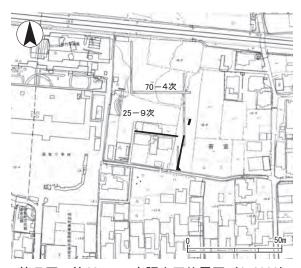
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字広頭地内

原 因 プール移転

調査期間 平成27年8月3日~10月16日

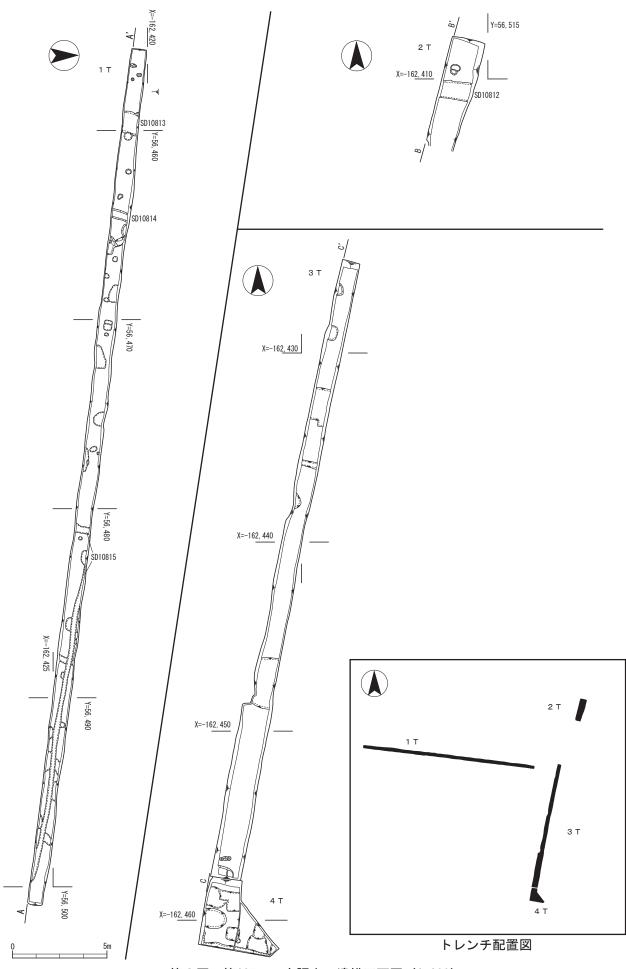
調査面積 72.2m²

調査概要 斎宮小学校のプール移転に伴うフェンスの設置工事について立会を行ったところ、遺構を確認したため実施した発掘調査である。調査地は史跡南部に位置し、第25-9次・70-4次調査区などが隣接している。遺構面は地表下 $0.3\sim0.4$ mで検出を行った。SD10812は、2Tの中央部で確認した東西に延びる溝で、斎宮編年 $\Pi-4$ 期の土師器 Π (1)が出土した。SD10813・10814は1Tの西側で確認

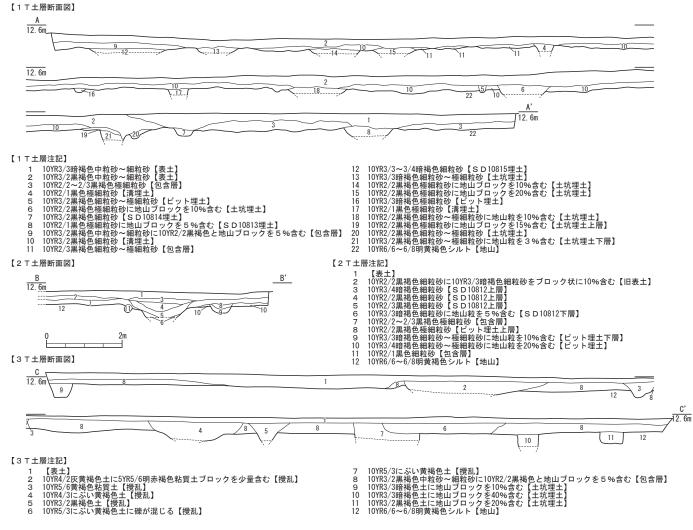


第7図 第185-3次調査区位置図(1:2000)

した南北に延びる溝状の遺構で、遺物は出土しなった。この2条の溝は第25-9次調査で確認した、SD1588・1590・1591などの溝群と関連する円形周溝状の溝である可能性がある。遺物はSD10814から古代の土師器片が出土しており、第25-9次調査でも奈良時代から平安時代にかけての土器が出土している。SD10815は2Tの東側で確認した全長19m以上の東西に延びる溝で、周囲には平安時代後期の区画溝を伴う屋敷地の展開していることが明らかとなっており、本溝も同様の性格を有

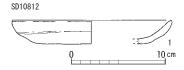


第8図 第185-3次調査 遺構平面図 (1:200)



第9図 第185-3次調査 遺構断面図(1:100)

する溝の可能性がある。ただし、土師器と須恵器の小破片のみの出土であったため正確な時期は不明である。以上、限られた範囲での調査ではあったが、古代以前の円形周溝や平安時代後期以降の方形区画と考えられる溝など、広頭地区の解明に繋がる成果が得られた。



第10図 第185 — 3 次調査 遺物実測図(1:4)

4 第185-4次調査(6AR11)

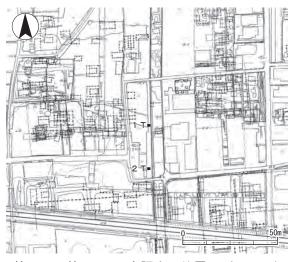
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字柳原地内

原 因 史跡整備

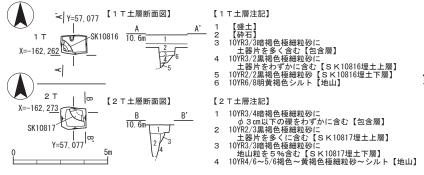
調査期間 平成27年8月5日~6日

調査面積 0.5m²

調査概要 明和町の歴史的風致維持向上計画にかかる歴まち整備事業の一環である町道坂本斎宮線の整備事業工事について立会を行ったところ、遺構を確認したため実施した発掘調査である。調査地は史跡中央部東に位置する。また遺構面は地表下約0.2~0.3mで検出を行った。SK10816は1Tに確認した土坑で、調査区外に続く。



第11図 第185-4次調査区位置図(1:2000)



第185-4次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

SK10816 SK10817 10 cm

第13図 第185-4次調査 遺物実測図(1:4)

遺構底面より斎宮編年Ⅲ-2~3 期の灰釉陶器(1)が出土した。 S K10817は2 T に確認した土坑 で、縦に深く掘り込まれているこ とから、柱穴の可能性もある。斎

宮編年Ⅲ−2~3期の土師器皿(2)が出土した。以上、限定された範囲の調査ではあったが、柳 原区画東部の一端の解明に繋がる成果が得られた。

第185-5次調査(6AQ14) 5

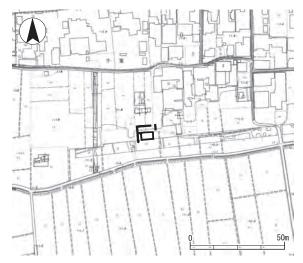
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字鈴池4435番

原 大 住宅新築

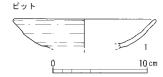
調査期間 平成27年8月19日~28日

調査面積 23.3m²

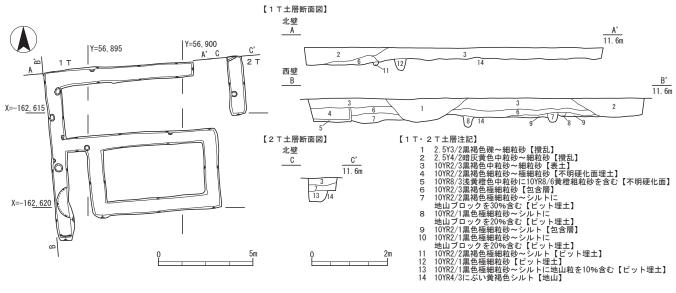
調査概要 住宅新築に伴い事前に実施した発掘調査 で、調査地は史跡南部に位置する畑地である。遺構 面は地表下約0.5mで検出を行った。ピットからは 斎宮編年Ⅲ-1~2期のロクロ土師器椀(1)が出 土した。その他、土坑状の攪乱や包含層より、近世 土師器焙烙や陶器灯明皿、擂鉢、ロクロ土師器、土 師器小皿、遺構からはロクロ土師器の皿や台付小皿、陶器山茶椀などが 出土した。



第185-5次調査区位置図(1:2000) 第14図



第15図 第185-5次調査 遺物実測図(1:4)



第16図 第185-5次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

6 第185-6次調査(6AM6・7)

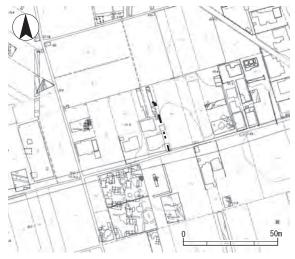
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字篠林3139-1・2

原 因 下水管宅内配管

調査期間 平成27年9月14日~29日

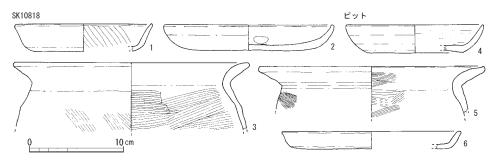
調査面積 23.3 m²

調査概要 明和町の史跡内下水道事業に伴う下水管 設置工事ついて立会を行ったところ、遺構を確認し たため実施した発掘調査である。調査地は史跡中央 部北に位置する住宅地である。遺構面は、地表から 1 Tで約0.7m、2 Tで約0.3m、3 Tで約0.6m、 4 T・5 Tで約0.4mの地山上層面で検出を行った。 S K10818は、4 Tで確認した土坑で、斎宮編年 I

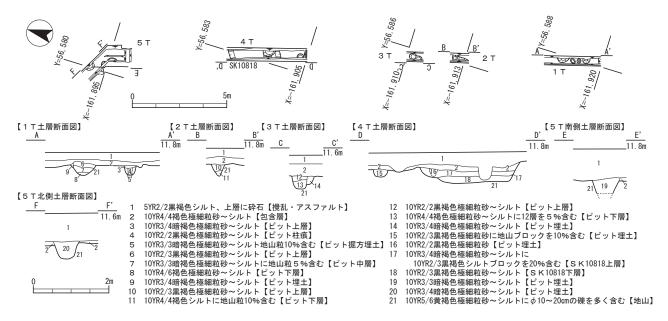


第17図 第185-6次調査区位置図(1:2000)

-3期~I-4期の土師器杯(1)、皿(2)や甕(3)が出土した。その他、5 Tのピットからは須恵器杯(4)、1 Tのピットからは土師器甕(5)、ピットからは土師器皿(6)が出土しており、いずれも斎宮編年 $I-3 \sim I-4$ 期に該当する。



第18図 第185-6次調査 遺物実測図(1:4)



第19図 第185-6次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

7 第185-7次調査(6AR7)

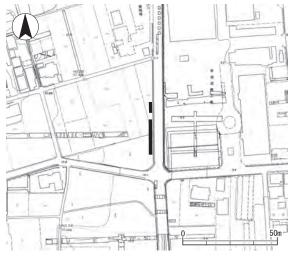
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿地内

原 因 休憩所施設建設

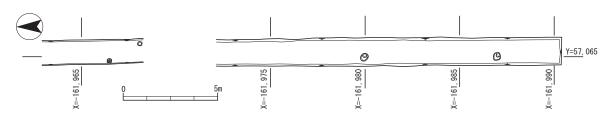
調査期間 平成27年9月15日

調査面積 28.3 m²

調査概要 明和町の歴史的風致維持向上計画にかかる事業の一環として行われた斎宮・坂本線整備工事について立会を行ったところ、遺構を確認したため 実施した発掘調査である。調査地は史跡中央部東に位置する。遺構面は地表下約0.9mで検出を行い、 ピットを確認した。遺物は土師器の小片が出土した。



第20図 第185-7次調査区位置図(1:2000)



第21図 第185-7次調査 遺構平面図 (1:200)

8 第185-8次調査(6AP6)

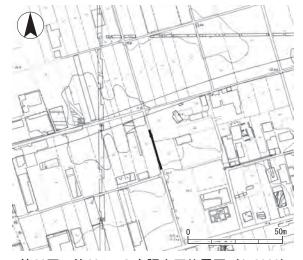
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿地内

原 因 住宅新築

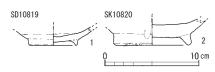
調査期間 平成27年10月6日~7日

調査面積 10.6m²

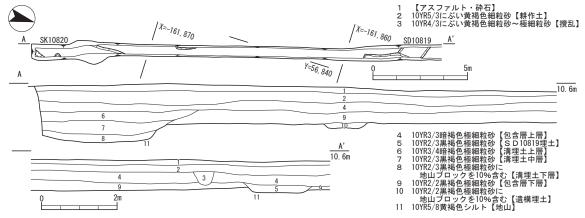
調査概要 個人住宅の新築に伴う下水管設置工事について立会を行ったところ、遺構を確認したため実施した発掘調査である。調査地は史跡中央部北に位置する道路地である。遺構面は、地表下0.9mで検出を行った。SD10819は北側で確認した溝で、斎宮編年Ⅲ-3~4期の山茶椀(1)が出土した。SK10820は南側で確認した溝状の遺構で、斎宮編年Ⅲ-2~3期の灰釉陶器椀(2)が出土した。



第22図 第185-8次調査区位置図(1:2000)



第23図 第185-8次調査 遺物実測図(1:4)



第24図 第185-8次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

9 第185-9次調査(6AL5)

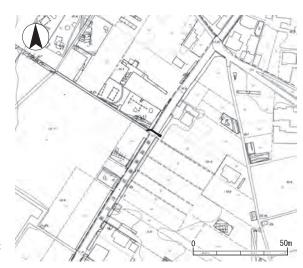
調查場所 多気郡明和町大字竹川字古里地内

原 因 住宅新築

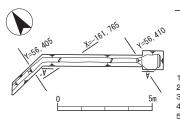
調査期間 平成27年10月8日

調査面積 2.7m²

調査概要 個人住宅の水道管設置に伴い立会を行ったところ、遺構を確認したため実施した発掘調査である。調査地は史跡北西部に位置する道路地である。 遺構面は地表下約1.0mで検出を行った。調査区中央で土坑を確認したが、遺物は包含層から土師器の小片が出土したのみである。



第25図 第185-9次調査区位置図(1:2000)





第26図 第185-9次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

10 第185-10次調査(6AM・N11)

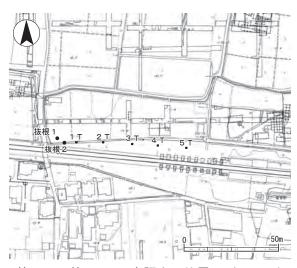
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字内山地内

原 因 史跡整備

調査期間 平成27年10月14日

調査面積 2.4m²

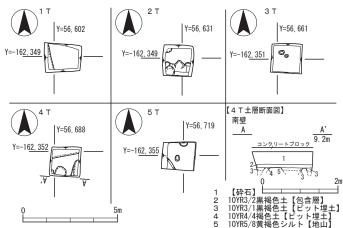
調査概要 明和町の歴史的風致維持向上計画にかかる事業の一環として行われた、斎宮駅北側園路整備事業に伴う園路灯設置工事ついて立会を行ったところ、遺構を確認したため実施した発掘調査である。調査地は史跡中央部に位置している。遺構面は地表下約0.4mで検出を行った。遺構は、溝および土坑、



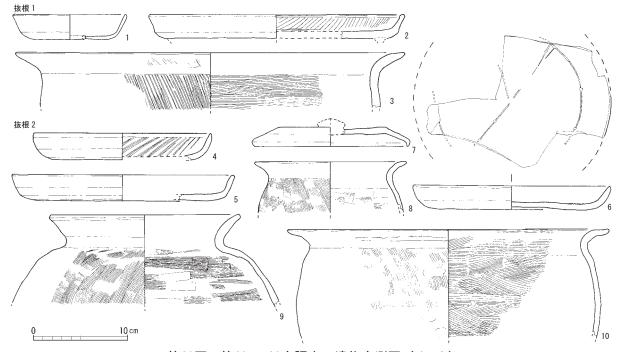
第27図 第185-10次調査区位置図(1:2000)

ピットなどを確認したものの、明確に遺構に伴う遺物はみられなかった。遺物は包含層から土師器、 須恵器、近現代の瓦が出土した。

また、本整備に伴う樹木の2箇所の抜根に際して、多数の土師器と須恵器が出土した。主に黒褐色土(包含層)からの出土で、抜根1からは斎宮編年I-2期の土師器杯(1)・皿B(2)・甕(3)が出土した。抜根2からは斎宮編年I-2期の土師器皿(4・5)、記号刻書皿(6)、須恵器蓋(7)、土師器甕(8~10)など、多数の土器が出土した。



第28図 第185-10次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)



第29図 第185-10次調査 遺物実測図(1:4)

11 第185-11次調査(6AL13)

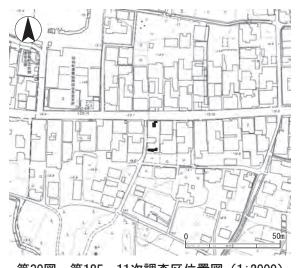
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉96番1、100番

原 因 住宅新築

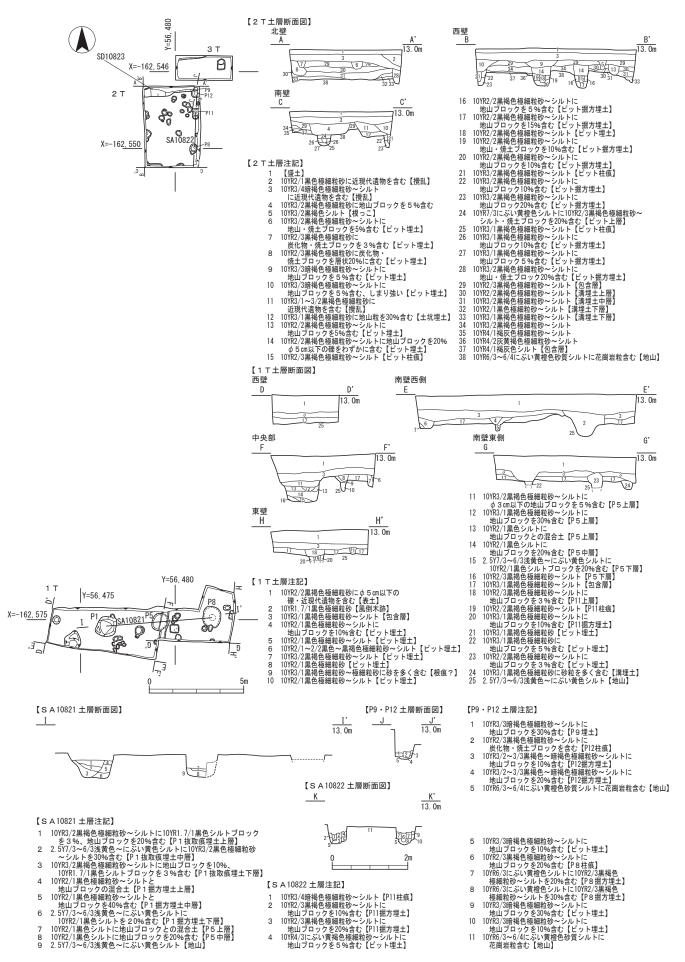
調査期間 平成27年11月4日~13日

調査面積 37.4m²

調査概要 住宅新築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南部の旧参宮街道沿いに位置する住宅地である。本調査地では、平安時代方格地割外の西100mの場所にあるが、奈良時代末から平安時代初頭の大型掘立柱建物や塀の可能性がある柱列を確認した。



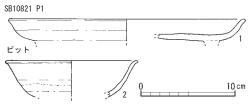
第30図 第185-11次調査区位置図(1:2000)



第31図 第185-11次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

調査区は、南側に1T、北側に2T・3Tの2箇所の計3 箇所に設定し、1Tは大型の柱列が東側に連続することが ほぼ確実となったため、L字状に調査区を拡張した。

1 T 遺構面は地表下約0.7mで検出を行った。SA10821は大型の柱穴を有する掘立柱建物か塀と考えられる柱列で、いずれの柱穴も一辺 $1\sim1.2m$ となる。柱間も約3mと大型、



第32図 第185-11次調査 遺物実測図(1:4)

斎宮の中でも内院に所在する柱列に匹敵する規模と言える。掘立柱建物か塀に伴う柱列であるのかは、限られた調査区の中では確認できなかった。ただし、P1より西側3mには明確な柱穴を確認できなかったことから、これ以上は西側に展開しない柱列と推測できる。遺物は、SA10821P1から、斎宮編年I-4期の土師器皿B(1)が出土している。その他、参宮街道に隣接することもあり、包含層からは近世土師器焙烙、近世陶磁器が出土し、その他にも土師器杯、甕、須恵器盤、志摩式製塩土器、砥石なども出土した。

2 T・3 T 遺構面は地表下約0.6mで検出を行った。SD10823は2Tの北端で確認した溝状の遺構で、3Tの南側では確認されていないため、幅は0.7m以下と考えられる。遺物は土師器が出土した。SA10822は南北に並ぶ柱列で、どちらも柱痕跡を確認した。建物の可能性が高く、P8下層には根石が充填されていた。その他、ピットから斎宮編年II-4期の灰釉陶器椀(2)、図化はできなかったが、異なるピットからは志摩式製塩土器の小片が多数出土している。また1T同様、包含層より近世陶器や鉄製品が出土した。

以上、限定された範囲での調査ではあるが、方格地割造成期に、地割より西に100mも離れたこの場所でSA10821のような大型柱列の展開することが明らかとなった。なぜ当該地にこの規模の柱列が建てられたのか、また周囲に同等の規模の建物が展開するのか、今後の調査の進展に期待したい。

12 第185-12次調査(6AW8)

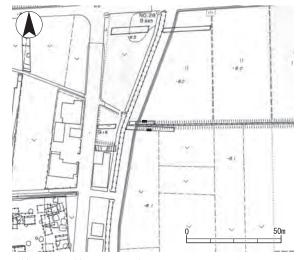
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字内山地内

原 因 排水路改修

調査期間 平成27年10月14日

調査面積 断面でのみ遺構確認

調査概要 明和町の排水路改修工事について立会を 行ったところ、既存水路の工事に伴うカクランによ って、平面での遺構の確認はできなかったが、断面 のみで遺構を確認したため調査を行った。調査地は



第33図 第185-12次調査区位置図(1:2000)

【北側土層断面】

1
1
7.8m 2
7.8m 2
7.8m 2
7.8m 8
9 5 3 8
9 5 3 8
0 2
7.8m 8 6 7
9 2m
2 1 【耕作土】
2 10YR5/1 褐灰色粘土
3 10YR4/1 褐灰色粘土
4 10YR2/1 黒色土
5 10YR4/1 褐灰色粘土に 10YR7/8 黄橙色ブロックを含む
6 10YR7/8 黄橙色粘土
7 10YR5/1 褐灰色粘土に 10YR7/8 黄橙色ブロックを含む
8 10YR5/2 灰黄褐色シルト
9 10YR5/6 明黄褐色粘土【地山】

第34図 第185-12次調査 遺構断面図 (1:100)

史跡北東部に位置する。遺構は、包含層上面の地表下約1.3mから掘り込まれており、別々のピット、あるいは南北に繋がる溝などの可能性が考えられる。遺物は出土しなかった。

13 第185-13次調査(6AH・I11・H12)

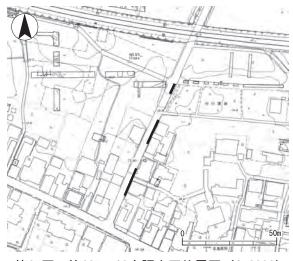
調查場所 多気郡明和町大字竹川地内

原 因 側溝付替

調査期間 平成28年2月2日~9日

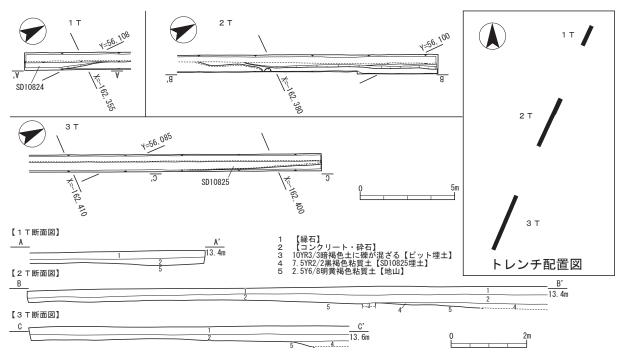
調査面積 27.9m²

調査概要 側溝の付替に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南西部に位置する道路端である。 遺構面は地表下から0.3~0.4mで検出を行った。SD 10824は1 Tで確認した溝で、古代の土師器片が出土 した。SD10825は3 Tで確認した溝で、SD10824 と繋がる溝の可能性もある。斎宮編年Ⅱ-1期の土 師器杯(1)が出土した。調査地の西側は、飛鳥・



第35図 第185-13次調査区位置図 (1:2000)

奈良時代斎宮が位置すると考えられている場所からはあまり遠くなく、SD10824・10825がもし一連の溝となるのであれば、全長約60m以上の長さとなり、関連する遺構の可能性も考えられよう。



第36図 第185-13次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)



第37図 第185-13次調査 遺物実測図(1:4)

14 第185-14次調査(6AR7)

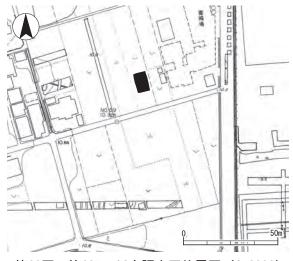
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2896番1

原 因 住宅建築

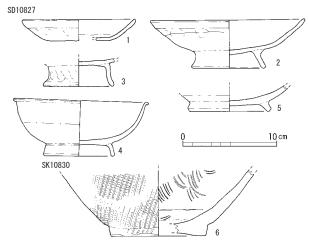
調査期間 平成28年2月23日~3月15日

調査面積 61.4m²

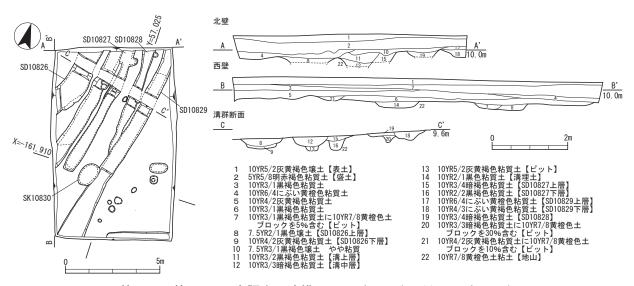
調査概要 住宅新築に伴い事前に実施した発掘調査 で、調査地は史跡北東部に位置する住宅地である。 遺構は地表下約0.6mで検出を行った。SD10826は 北西部で確認した南北軸の溝で、緩やかではあるが 弧状に湾曲し、調査区外へ続く。遺物は出土しなか った。SD10827は北から西部で確認した南北軸の 溝で、直線的に約7m延び北側は調査区外へ続く。 遺物は斎宮編年Ⅲ-1期の土師器皿(1)、土師 器椀(2・3)、灰釉陶器椀(4)、山茶椀(5) などが出土した。SD10828はSD10827と併行す る溝で、後述するSD10829と重複し、南側は失 われている。遺物は出土しなかった。SD10829 は、北東隅から南西隅に11.5m以上延びる溝で、 遺物は出土しなかった。SK10830は南部で確認 した土坑で、SD10829と重複し、斎宮編年Ⅲ期 の須恵器平底鉢(6)が出土した。重複関係から、 SK10830よりもSD10829が古く、SD10829より もSD10828が古いと考えられる。



第38図 第185-14次調査区位置図(1:2000)



第39図 第185-14次調査 遺物実測図(1:4)



第40図 第185-14次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

15 第185-15次調査(6AV7)

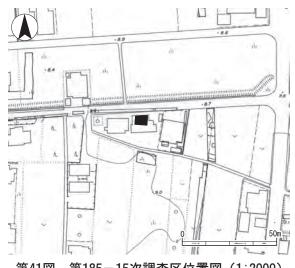
調查場所 多気郡明和町大字斎宮字東前沖2485-1

原 因 住宅新築

調査期間 平成28年2月23日~3月15日

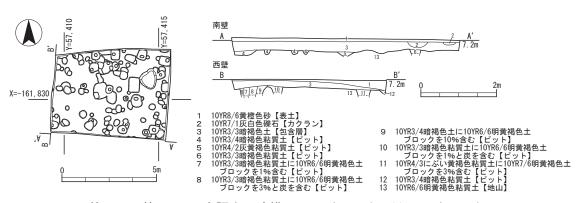
調査面積 27.3m²

調査概要 住宅新築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡北東部に位置する住宅地である。遺構は地表下約0.3mで検出を行った。多数の柱穴を確認したものの、調査区が限られていたため、建物を認識することができなかった。遺物は概ね斎宮編年 $\Pi - 2 \sim \Pi - 4$ 期で、ピットから土師器甕(1)、

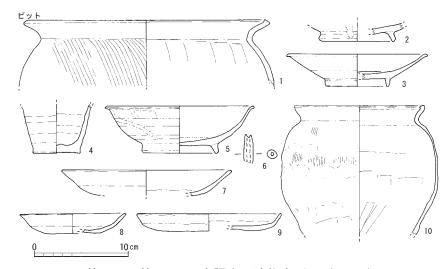


第41図 第185-15次調査区位置図(1:2000)

灰釉陶器椀(2)、灰釉陶器皿(3)、須恵器コップ形杯(4)、灰釉陶器椀(5)、土錘(6)、土師器椀(7)、土師器杯(8)、土師器皿(9)、土師器甕(10)がそれぞれ異なるピットから出土した。



第42図 第185-15次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)



第43図 第185-15次調査 遺物実測図(1:4)

【註】

(1) 土器編年については右記の報告書を参考にした。『斎宮跡発掘調査報告 I 』斎宮歴史博物館、2001

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
105.1	SK 10810	溝1	不明	なし	
185-1	SD 10811	溝 2	中世	山茶椀	
	SD 10812	2 T溝 1	鎌倉時代	土師器皿	
185-3	SD 10813	1 T溝 1	古墳時代?	なし	
185-3	SD 10814	1 T溝 2	古墳時代?	土師器	
	SD 10815	1 T溝 3	鎌倉時代	土師器・須恵器	
105.4	SK 10816	土坑	平安時代	灰釉陶器	
185-4	SK 10817	土坑	鎌倉時代	土師器	
185-6	SK 10818	土坑 1	奈良時代	土師器	
105.0	SD 10819	溝1	鎌倉時代	山茶椀	
185-8	SK 10820	土坑 1	鎌倉時代	山茶椀	
	SA 10821	柱列	奈良時代後期	土師器	
185-11	SA 10822	ピット	平安時代	土師器	
	SD 10823	溝1	平安時代	土師器	
105 10	SD 10824	溝1	奈良時代	土師器	
185-13	SD 10825	溝 2	平安時代	土師器	
	SD 10826	溝 4	古代	土師器	
	SD 10827	溝 5	平安時代	土師器・灰釉陶器	
185-14	SD 10828	溝 2	古代~中世	土師器	
	SD 10829	溝1	古代~中世	土師器	
	SK 10830	土坑 1	平安時代	須恵器	

第2表 第185次調査 遺構一覧表

第185-1次調査

番号	器種	器形	出土 遺構	調査時 遺構名	法量 重さ	調整・技法の特徴		焼成	色調	残存度	登録 番号
1	陶器 (山茶椀)	椀	SD10811	溝 3	底径 残高	外面:ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部完形	001-01
2	ロクロ土師器	小皿	P1·P2上 層	P1·P2上 層	口径 器高	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	001-03
3	土師器	Ш	P2	P2	口径 器高	外面:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁部1/12 未満	001-04
4	陶器 (山茶椀)	椀	P2	P2	底径残高	外面:ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部2/12	001-06
5	土師器	Ш	Р3	Р3	口径 器高	外面:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	002-02
6	陶器 (山茶椀)	Ш	Р3	Р3	口径 器高	外面:ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部4/12	002-01
7	土師器	鍋	Р3	Р3	口径 残高	外面:ハケ(マメツ)、ヨコナデ、煤付着 内面:ハケ(マメツ)、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部3/12	001-07
8	陶器 (山茶椀)	椀	カクラン	溝3付近 カクラン	底径残高	外面:ロクロケズリ、ロクロナデ、一部にハケ、貼付高 台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白2. 5Y7/1	底部完形	001-02
第18	35-3次調	査									
1	土師器	Ш	SD10812	溝1上層	口径 器高	外面:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部4/12	001-01
第18	35-4次割	青査									
1	灰釉陶器	椀	SK10816	P1	底径 残高	外面:ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部7/12	001-02
2	土師器	Ш	SK10817	土坑 1 取No. 1	口径 器高	外面:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部1/12	001-01
第18	35-5次調	査	•								
1	ロクロ土師器	椀	ピット	P1	口径 残高	外面:ロクロケズリ、ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部3/12	001-01

第3表 第185次調査 出土遺物観察表1

-1	85-6次調	査										
1	土師器	杯	SK10818	土坑1	口径器高		外面:ヘラケズリ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ、放射状暗文	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	001-0
2	土師器	Ш	SK10818	土坑1	口径器高		外面:ヘラケズリ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ、螺旋状暗文(マメツ)	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	001-0
3	土師器	甕	SK10818	土坑1	口径 残高		外面:ハケ、ヨコナデ 内面:ハケ、ヨコナデ	やや 密	良	橙2. 5YR6/8	口縁部2/12	001-0
4	須恵器	杯	ピット	P1	口径器高	14. 3	外面: ロクロケズリ、ロクロナデ、ヘラケズリ 内面: ロクロナデ	密	良	灰7. 5Y5/1	口縁部1/12	001-0
5	土師器	甕	ピット	P8	口径残高	23. 5	外面:ハケ(マメツ)、ヨコナデ 内面:ハケ、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部1/12	001-0
6	土師器	Ш	ピット	P 10	口径器高	18. 5	外面: ヘラケズリ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12 未満	001-0
—— 第18	 B5-8次調	 査			位门印	1. 3	Milli a a 7 /				本個	
1	陶器 (山茶椀)	椀	SD10819	溝1	底径残高		外面:ロクロケズリ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	底部11/12	001-0
2	陶器 (山茶椀)	椀	SD10820	土坑1	底径残高	7. 6	外面:ロクロケズリ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部ほぼ完形	001-0
 第18	35-10次記	 周査			7及回	2.0	KAITH- TO A TO A)ID	
1	土師器	杯	抜根1	抜根1	口径器高		外面:ヘラケズリ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR6/8	口縁部4/12	001-0
2	土師器	ШB	抜根1	抜根1	口径	26. 5	外面:ヘラケズリ、ヨコナデ、高台剥離(接合痕あり)	密	良	橙5YR7/7	口縁部1/12	001-0
3	土師器	甕	抜根1	抜根1	残高 口径	40. 5	内面: ヨコナデ、螺旋状暗文、放射状暗文 外面: ハケ、ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部1/12	001-0
4	土師器		抜根2	抜根2	残高 口径	18. 5	内面:ハケ、ヨコナデ 外面:ヘラケズリ、ヨコナデ	密	良	橙5YR7/6	未満 口縁部2/12	002-0
5	土師器		抜根2	抜根2	器高 口径	23. 1	内面:ヨコナデ、放射状暗文 外面:ヘラケズリ、ヨコナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部1/12	003-0
		ш.			器高 口径		内面: ヘラケズリ、ヨコナデ 外面: ヘラケズリ、ヨコナデ			橙5YR6/6	未満 口縁部1/12	004-0
6	土師器		抜根2	抜根2	器高 口径		内面: ヘラナデ、ヨコナデ、円形線刻、横線線刻 外面: ロクロケズリ、ロクロナデ、ヘラケズリ、ツマミ剥離	密	良			
7	須恵器	蓋	抜根2	抜根2	残高 口径		内面: ロクロナデ、ナデ 外面: ハケ、ヨコナデ	密	良	黄灰2. 5Y5/1	口縁部7/12	001-0
8	土師器	魏	抜根2	抜根2	残高口径	5. 5	内面:ハケ、ヨコナデ 外面:ハケ、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部3/12	002-0
9	土師器	魙	抜根2	抜根2	残高	9. 8	内面:ハケ、ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	未満	003-0
10	土師器	甕	抜根2	抜根2	口径 残高		外面:ハケ、ヨコナデ 内面:ハケ、ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12	002-0
第18	5-11次訂	周査		1	日夕	04.0	NT 2 . of 11 or - 1 of or 1 adds (by 1 . fine 1)			1	D 42 481 /10	1
1	土師器	ШB	SB10821P1	P1	口径 残高	2. 3	外面: ヘラケズリ、ヨコナデ、高台剥離(接合痕あり) 内面: ナデ、ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12 未満	001-0
2	灰釉陶器	椀	ピット	P2	口径 残高		外面: ロクロケズリ、ロクロナデ 内面: ロクロナデ	密	良	釉薬: 麹塵991 素地:灰白2.5Y7/1	口縁部1/12	001-0
第18	5-13次訂	周査										
1						40.5	[H-12]				67 det 4 (4 0	_
	土師器	杯	SD10825	溝1	口径残高		外面:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12 未満	001-0
第18	^{土師器} 35-14次記		SD10825	溝1	残高	2. 8	内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4		001-0
第18 ¹			SD10825 SD10827	溝1	残高 口径 器高	2. 8 11. 7 2. 2		密密	良良	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR7/3		001-0
	B5-14次記	周査			残高口径	2. 8	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ 内面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ				未満	001-0
1	35—14次記 土師器	間査	SD10827	溝 5	残高 口器 口器 石器 石器	2. 8 11. 7 2. 2 16. 1 5. 1 7. 3 7. 3	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ 内面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	未満 口縁部4/12 口縁部2/12	
1 2	5-14次記 土師器 土師器	順査	SD10827 SD10827	溝 5	残 口器 口器 区 底径	2. 8 11. 7 2. 2 16. 1 5. 1 7. 3 7. 3	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ 外面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ	密密	良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4	未満 口縁部4/12 口縁部2/12 底部完形	001-0
2 3	25-14次記 土師器 土師器 土師器	椀椀	SD10827 SD10827 SD10827	溝 5 溝 5 溝 5	残 口器 口器底 底残 口器	2. 8 11. 7 2. 2 16. 1 5. 1 7. 3 2. 9 13. 8 5. 9 7. 4 8. 1	内面: ヨコナデ 外面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ボー 内面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、貼付高台 内面: ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕	密密	良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 釉薬:山鳩色822	未満 口縁部4/12 口縁部2/12 底部完形 底部8/12	001-0
1 2 3 4	5-14次記 土師器 土師器 土師器 灰釉陶器	椀椀	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827	溝 5 溝 5 溝 5	残 口器 口器底底残 口器底底	2. 8 11. 7 2. 2 16. 1 5. 1 7. 3 7. 3 2. 9 13. 8 5. 9 7. 4 8. 1 2. 7 9. 9	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ 外面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕	密密密	良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 釉薬:山鳩色822 素地:灰白N7/	未満 「緑部4/12 「緑部2/12 底部完形 底部8/12 「緑部3/12	001-0 001-0 001-0
1 2 3 4 5 6	25-14次記 土師器 土師器 土師器 灰釉陶器 (山茶椀)	南査 皿 椀 椀 椀 椀 椀 椀 杯 椀 杯 椀 杯 杯 椀 杯 杯 杯 杯 杯 杯	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827	溝5 溝5 溝5 溝5	残 口器口器底底残口器底底残底 底残 (全高径) (csc) (csc	2. 8 11. 7 2. 2 16. 1 5. 1 7. 3 7. 3 2. 9 13. 8 5. 9 7. 4 8. 1 2. 7 9. 9	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ 外面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロナズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ	密密密	良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 釉薬:山鳩色822 素地: 灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2	未満 口縁部4/12 口縁部2/12 底部完形 底部8/12 口縁部3/12 底部完形	001-0 001-0 001-0 001-0
1 2 3 4 5 6	生師器 土師器 土師器 灰釉陶器 阿醫 (山茶椀) 須恵器	南査 皿 椀 椀 椀 椀 椀 椀 杯 椀 杯 椀 杯 杯 椀 杯 杯 杯 杯 杯 杯	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827	溝5 溝5 溝5 溝5	残 口器口器底底残口器底底残底 底残 (全高径) (csc) (csc	2. 8 11. 7 2. 2 16. 1 5. 1 7. 3 2. 9 13. 8 5. 9 7. 4 8. 1 2. 7 9. 9 6. 9	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、ナデ 外面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロナズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ	密密密	良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 釉薬:山鳩色822 素地: 灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2	未満 口縁部4/12 口縁部2/12 底部完形 底部8/12 口縁部3/12 底部完形	001-0 001-0 001-0 001-0
1 2 3 4 5 6	生師器 土師器 土師器 土師器 火釉陶器 阿器 (山茶椀) 須恵器	間査 Ⅲ 椀 椀 椀 椀 椀 麻麻鉢 間査	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SK10830	游5 沸5 沸5 沸5 沸5 土坑1	残 口器口器底底残口器底底残底残 底残口器底底残 底残	2. 8 11. 7 2. 2 16. 1 5. 1 7. 3 7. 3 2. 9 13. 8 5. 9 7. 4 8. 1 2. 7 9. 9 6. 9	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、比付け高台、ナデ 内面: ココナデ、ナデ 外面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、貼付は高台 内面: ロクロナデ 外面: ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: 同心円文当で具痕、ナデ	密密密密密	良良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 釉薬: 山鳩色822 素地: 灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2	未満 「緑部4/12 「緑部2/12 「麻部2/12 「麻部8/12 「緑部3/12 「緑部3/12 「麻部3/12	001-0 001-0 001-0 001-0 001-0
1 2 3 4 5 6 第18	25—14次記 土師器 土師器 上師器 灰釉陶器 (山茶椀) 須恵器 25—15次記	間査 Ⅲ 椀 椀 椀 椀 杯 麻 杯 平 账 鉢	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SM10830	溝5 溝5 溝5 溝5 溝5 土坑1	残 口器 口器底底残 口器底底残 底残 口器底底残 口器底底残 底残 口残底	2. 8 11. 7 2. 2 16. 1 5. 1 7. 3 7. 3 2. 9 13. 8 5. 9 7. 4 8. 1 2. 7 9. 9 6. 9	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、サデ 内面: ヨコナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、おけけ高台 内面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: マクロナデ 外面: マクロナデ 内面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ	密密密密密	良良良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 釉薬:山鳩色822 素地:灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2 灰10Y5/1 にぶい橙7.5YR7/4 釉薬:抹茶色838	未満 □縁部4/12 □縁部2/12 底部完形 底部8/12 □縁部3/12 □縁部3/12 □縁部3/12	001-0 001-0 001-0 001-0 001-0 001-0
1 2 3 4 5 6 第18	上師器 上師器 上師器 上師器 灰釉陶器 阿器(山茶椀) 須惠器 35-15次記 上師器	間査 皿 椀 椀 椀 椀 杯 椀 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯 エ エ ツ ブ 形	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SK10830	游5 满5 满5 满5 满5 上坑1	残 口器 丘器底底残 口器底底残 底残 医残 工器底底残口器底底残 医残 医残 工 人 医 医 医 人 工	2.8 8 11.7 2.2 2 16.1 1 7.3 3 7.3 3.8 8 13.8 8 10.9 9 9.9 9 10.4 4 3.9 8 4.8 8 4.8 8 4.8 8	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、サデ 内面: ヨコナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、おけけ高台 内面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: マクロナデ 外面: マクロナデ 内面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ	密密密密密密	良良良良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 軸薬:山鳩色822 素地:灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2 灰10Y5/1 にぶい橙7.5YR7/4 軸薬:抹茶色838 素地:灰黄2.5Y7/2	未満 「緑部4/12 「緑部2/12 「底部完形 「底部8/12 「緑部3/12 「緑部3/12 「八緑部1/12 「広部4/12 「「京森部4/12 「「京森部4/12 「「京森部4/12 「「京森部4/12 「「京森部4/12	001-C 001-C 001-C 001-C 001-C
1 2 3 4 5 6 8 1 2 3	生師器 土師器 土師器 土師器 灰釉陶器 (山茶椒) 須恵器 (山茶椒) 東語 大師器 (山茶椒)	間査 Ⅲ 椀 椀 椀 椀 椀 椀 椀 椀 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯 杯	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SK10830 ピット ピット	溝5 溝5 溝5 溝5 溝5 土坑1 A2P2 A2P6	残 口器底底残口器底底残底残 底残口器底底残底残 口残底残 口器底	2.8 8 11.7 2.2 2 16.1 1 7.3 3 7.3 3.8 8 13.8 8 10.9 9 9.9 9 10.4 4 3.9 8 4.8 8 4.8 8 4.8 8	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ、貼付高台 内面: ロクロナデ トの面: ハケ、ヨコナデ トの面: ハケ、ヨコナデ トの面: ハケ、ヨコナデ トの面: ハケ、コンナデ トの面: ロクロナデ トの面: ロクロケズリ、ロクロナデ	密密密密密密密	良良良良良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 軸薬:山鳩色822 素地:灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2 灰10Y5/1 にぶい橙7.5YR7/4 軸薬:抹茶色838 素地:灰黄2.5Y7/2 軸薬:成光茶990 素地:灰白2.5Y7/1	未満 □縁部4/12 □縁部2/12 広部完形 底部8/12 □縁部3/12 広部完形 底部3/12 広部3/12 □縁部1/12 広部4/12 □緑部1/12 大満 広部4/12	001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(
1 2 3 4 5 6 第18 1 2 3	上師器 上師器 上師器 上師器 灰釉陶器 「山茶椀」 須恵器 第5-15次記 上師器 灰釉陶器	開査 皿 椀 椀 椀 椀 椀 椀 椀 木碗 鉢 平査 売 椀 皿 ブバ	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SK10830 ピット ピット	満5 満5 満5 満5 満5 上坑1 A2P2 A2P6 A2P8	残 口器底底残口器底底残底残 口残底残口器底底残口器底底残口器底底残口器底底残 口残底残口器底底残口器底	2.8 8 11.7 2.2 2 16.1 1 7.3 3 9 13.8 8 5.9 9 6.9 12.5 0 6.3 3 9 6.3 3 15.4 4 4.9 9 7.6 6 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、サデ 内面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、場付け高台、カワ 外面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ、貼付け高台 外面: ロクロナデ 外面: ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: にクロナデ 外面: にクロナデ 外面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロナデ、エスリー・ アン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	密密密密密密	良良良良良良良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 軸薬:山鳩色822 素地:灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2 灰10Y5/1 にぶい橙7.5YR7/4 軸薬:抹茶色838 素地:灰黄2.5Y7/2 軸薬:成光茶990 素地:灰白2.5Y7/1 灰5Y6/1 軸薬:ねこやなぎ色(サロー)	未満 □縁部4/12 □縁部2/12 底部完形 底部8/12 □縁部3/12 □縁部3/12 □縁部1/12 底部4/12 □縁部1/12 未満 底部4/12 に部6/12 □縁部2/12	001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(
1 2 3 4 5 6 \$\pi 18 1 2 3 4 5 5	上師器 上師器 上師器 上師器 反釉陶器 (山茶碗) 須恵器 (山茶碗) 東語 下種屬 下釉陶器 下種屬 下釉陶器	間査 血 椀 椀 椀 麻 麻 本 変 椀 血 ブ 杯 椀	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SK10830 ピット ピット	溝5 溝5 溝5 溝5 溝5 土坑1 A2P2 A2P6 A2P8 A2P12	残 口器 口器底底残口器底底残底残 口残底残口器底底残口器底底残口器底底残 口费底残 口费底残口器底底残口器底残口器底残口器底残口器底残口器底残 日 经高径高径高径高径 長径	2.8 8 11.7 2.2 2 16.1 1 7.3 3 7.3 3.2 9 7.4 4 8.1 1 2.5 6 9.9 9 25.0 7 7.0 9 14.4 4 9.9 9 14.4 4 9.9 0 15.4 4 9.9 1 16.8	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、貼付け高台 (大変 大面: ロクロナデ、貼付高台 (大変 大面: ロクロナデ、 上が (大変 大変 大	密密密密密密密密	良良良良良良良良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 軸薬:山鳩色822 素地:灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2 灰10Y5/1 にぶい橙7.5YR7/4 軸薬:抹茶色838 素地:灰黄2.5Y7/2 軸薬:成光茶990 素地:灰白2.5Y7/1 灰5Y6/1 軸薬:ねこやなぎ色(サロー) 825 素地:灰黄2.5Y7/2	未満 「緑部4/12 「緑部2/12 「底部完形 「底部8/12 「段部3/12 「段部3/12 「段部3/12 「「緑部3/12 「「緑部4/12 「広部4/12 「広部4/12 「広部6/12 「経部6/12	001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(001-(
1 2 3 4 5 6 第18 1 2 3 4 5	上師器 上師器 上師器 上師器 灰釉陶器 (山茶椒) 須恵器 (山茶椒) 須恵器 (山茶椒) 須恵器 (山茶椒) 東熱陶器 灰釉陶器 灰釉陶器 灰釉陶器	間査 Ⅲ 椀 椀 椀 椀 椀 椀 杯 椀 木 木 一 土 垂	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 せット ピット ピット	満5 満5 満5 満5 満5 土坑1 A2P2 A2P6 A2P8 A2P12 A3P3	残 口器底底残口器底底残底残 口残底残口器底底残口器底成残口器底成残 口器底底残 口器底底残 口器底底残口器底成残 工器 医双甲二氏 医二甲二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医	2.8 8 11.7 2.2 2 16.1 7.3 3 7.3 3 2.5 9 9.9 6.9 25.0 0 7.5 1.9 9 6.3 4.8 8.5 2.2 7 7.6 6.3 0 0.3 3 18.7 7.2 7.7 11.0 0	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ココナデ、オサエ、サデ 内面: ココナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ、貼付高台 () 外面: ロクロナデ、貼付高台 () 外面: ロクロナデ () ののでは、 () のので	密密密密密密密密密	良良良良良良良良良良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 軸薬: 山鳩色822 素地: 灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2 灰10Y5/1 にぶい橙7.5YR7/4 軸薬: 抹茶色838 素地: 灰黄2.5Y7/2 軸薬: 成光茶990 素地: 灰白2.5Y7/1 灰5Y6/1 軸薬: ねこやなぎ色(サロー) 825 素地: 灰黄2.5Y7/2	未満 「緑部4/12 「緑部2/12 「底部完形 「底部8/12 「緑部3/12 「緑部3/12 「「緑部3/12 「「緑部1/12 「広部4/12 「広部4/12 「広部6/12 「「緑部6/12 「「緑部6/12 「「緑部6/12 「「大満海に、「「大海路2/12 「大海路2/12 「大海路2/12 「大海路2/12 「大海路2/12 「大海路2/12 「大海路2/12 「大海路2/12 「大海路2/12 「大海路2/12	001-C
1 2 3 4 5 6 第18 1 2 3 4 5 6	25—14次記 土師器 土師器 土師器 灰釉陶器 阿務椀 須恵器 35—15次記 土師器 灰釉陶器 灰釉陶器 灰釉陶器	間査 血 椀 椀 椀 椀 椀 椀 椀 杯 杯 杯 木 杯 株 土 杯	SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SD10827 SV10827 Eツト ピット ピット ピット	游5 沸5 沸5 沸5 沸5 土坑1 A2P2 A2P6 A2P8 A2P12 A3P3 B2P2	残 口器口器底底残口器底底残底残 口残底残口器底底残口器底底残 口器底底残 口器底底残 口残底残口器底底残口器底	2.8 8 11.7 2.2 2 16.1 1 7.3 3 7.3 3.2 9 7.4 4 8.1 1 2.6 9 2.5 0 7.0 0 7.5 5 9.9 1 14.4 4 3.9 3 6.9 4 4.9 4 7.6 6 3.0 0 3.0 1 18.7 7 2.7 7 11.0 0 2.1 1 15.0 0	内面: ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、財付け高台、ナデ 内面: ヨコナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、オサエ、貼付け高台、ナデ 内面: ロクロナデ、貼付け高台 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、重ね焼き痕 ナデ、重さ2. 21g	密密密密密密密密密密密	良良良良良良良良良良良良良良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3 釉薬:山鳩色822 素地:灰白N7/ 灰黄2.5Y7/2 灰10Y5/1 にぶい橙7.5YR7/4 釉薬:抹茶色838 素地:灰黄2.5Y7/2 釉薬:灰白2.5Y7/1 灰5Y6/1 釉薬:ねこやなぎ色(サロー) 825 素地:灰黄2.5Y7/2	未満 「一線部4/12 「一線部2/12 「底部完形 「底部8/12 「一線部3/12 「一線部3/12 「一線部1/12 「底部4/12 「一線部1/12 「底部6/12 「一線部2/12 「上、一線部2/12	001-C

第4表 第185次調査 出土遺物観察表2

付編 史跡現状変更等許可申請

平成27年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、58件である。発掘調査を行ったのは、前年度申請分も含め16件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が1件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが15件(うち前年申請分6件)である。

58件の申請の内、発掘調査を行わなかった48件は、小規模または工事が簡易で地下遺構に影響を 及ぼさないものや、すでに発掘調査が行われている箇所での申請であった。なお、基礎掘削工事に あたっては斎宮歴史博物館調査研究課並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の立会いのもとで実施 している。

27年度の申請の内容は、一覧表(第5表)のとおりである。これらの申請は、(A) 個人等から申請されるもの、(B) 公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、(C) 史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、(D) 発掘調査のための申請に分けることができる。

(A) 個人等による申請

個人等による申請は、住宅等建築、解体に伴うもので19件あった。うち住宅新築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた5件(第185-5、8、11、14、15次調査)について調査を行った。

他の14件については、住宅建築や撤去、工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、すでに発掘調査が行われている場合や、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ばすことなく施工している。

(B) 公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は21件の提出があった。うち発掘調査が必要な申請は1件あり、側溝付替(第185-13次 調査)を実施した。他の件については、電気・電話関係や、簡易な踏切改修、道路舗装であり工事 立会いで着工している。

(C) 史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は17件あり、三重県による史跡整備や倉庫建築、明和町歴史的風致維持向上計画に基づく史跡内環境整備に伴うものであった。その中で、発掘調査が必要な申請は2件あり、史跡整備(第185-4次調査)、排水路改修(第185-12次調査)について実施した。

(D) 発掘調査のための申請

この申請は1件の提出があった。三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査(第186次調査)で、536㎡が調査された。

この内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

(乾 哲也)

	申 請 地	種別	申 請 者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1	斎宮字楽殿2890-8、2890-6の一部	Α	個人	住宅建築	H27.4.7	H27.5.15	87.23m²	4	第185-8次調査
2	竹川字中垣内471-2	В	中部電力㈱松阪営業所	電柱・支線建替	H27.4.7	H27.4.10	1本、1条	4	1
3	斎宮字内山3046-25	В	西日本電信電話㈱三重支店	支線新設	H27.4.7	H27.4.22	1条	1	
4	斎宮字篠林3176-2	В	西日本電信電話㈱三重支店	電話柱建替	H27.4.7	H27.4.22	1本	4	
5	斎宮字塚山3308-2の一部ほか53筆	С	三重県(斎宮歴史博物館)	古代伊勢道整備	H27.4.10	H27.5.15	L=350m	1	
6	斎宮字御舘2965ほか17筆	С	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	区画道路復元整備等	H27.4.15	H27.5.15	L=234.9m	1	
7	斎宮字西加座2666-1ほか38筆	С	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	史跡整備	H27.4.15	H27.5.15	13基、46.3㎡	1	第185-4次調査
8	竹川字東浦334-10 斎宮字広頭3382-5	В	近畿日本鉄道㈱	鉄柱補修	H27.4.22	H27.6.19	2本	3	
9	竹川字中垣内369-3ほか2筆	С	三重県(斎宮歴史博物館)	プレハブ設置	H27.5.12	H27.6.19	1棟	1	
10	斎宮字西加座2660-1ほか3筆	В	中部電力㈱松阪営業所	電柱移設等	H27.5.13	H27.6.5	9本、8条	1	
11	斎宮字下園2926-3ほか11筆	D	三重県(斎宮歴史博物館)	発掘調査	H27.6.8	H27.7.17	536m ²	1	第186次調査
12	斎宮字鈴池4435ほか2筆	А	個人	住宅新築	H27.6.8	H27.7.17	64.75m²	3	第185-5次調査
13		С	明和町(各宮路・女仏舞坐舞)	井戸付替	H27.6.9	H27.7.17	1基	1	
14	斎宮字牛葉2757-3ほか13筆	В	(斎宮跡·文化観光課) 近畿日本鉄道㈱	踏切改良等	H27.6.10	H27.7.17	L=147m	3	
15	斎宮字塚山3308-2の一部ほか53筆	С	明和町	電気配管工事	H27.6.11	H27.7.17	L=350m	1	
16	斎宮字楽殿2885-2	A	(斎宮跡·文化観光課) 個人	カーポート新設	H27.6.16	H27.6.24	1基	3	
17	高宮字西沖前2604-49、および地先	В	中部電力㈱松阪営業所	電柱及び支線の建替	H27.6.25	H27.7.6	4本、4条	1.4	
\vdash				住宅改築				4	第185-2次調査
18	竹川字東裏276 	В	個人 中部電力㈱松阪営業所	電柱建替	H27.7.15 H27.7.22	H27.9.18	45.7m	3	
19	斎宮字楽殿2890-9·6					H27.7.30	2本		
20	斎宮字西加座2660-2	В	西日本電信電話㈱三重支店明和町	電柱新設	H27.7.27	H27.8.5	1本	1	
21	竹川字中垣内397-2	С	(斎宮跡·文化観光課) 明和町	測量基準点新設	H27.8.9	H27.8.24	1基	1	
22	斎宮字稲木山4043-3 ———	С	(斎宮跡・文化観光課)	排水路改修	H27.8.17	H27.9.18	L=20.3m	3	第185-12次調査
23	竹川字古里572	В	西日本電信電話㈱三重支店	支線新設	H27.8.28	H27.9.11	1条	3	
24	斎宮字牛葉96-1、100	Α	個人	住宅建築	H27.9.14	H27.10.16	83.29m²	3	第185-11次調査
25	斎宮字中西地内	В	中部電力㈱松阪営業所	電柱新設	H27.9.24	H27.10.14	1本	3	
26	斎宮字楽殿2831-5 斎宮字西前沖2604-49	В	西日本電信電話㈱三重支店	支柱•支線新設	H27.10.2	H27.10.16	3本、2条	1.4	
27	斎宮字広頭3388-2	Α	個人	住宅撤去	H27.10.16	H27.11.20	151.31m ²	4	
28	竹川字古里503	С	三重県(斎宮歴史博物館)	プレハブ設置	H27.10.16	H27.11.20	2基	3	
29	竹川字南裏241	Α	個人	住宅撤去	H27.10.16	H27.11.20	300.9 m ²	4	1
30	斎宮字中西地内、竹川字東裏地内	В	三重県	側溝付替	H27.10.23	H27.12.11	L=226.7m	3	第185-13次調査
31	竹川字花園681-3ほか2筆	В	近畿日本鉄道㈱	設備撤去	H27.10.26	H27.11.19	2基	3	ı
32	斎宮字柳原2779-5、 斎宮字笛川2342-4	В	近畿日本鉄道㈱	コンクリート柱新設	H27.10.26	H27.11.19	3本	3	
33	竹川字東裏276	Α	個人	住宅増築	H27.10.26	H27.12.11	9.39m ²	4	
34	竹川字南裏241	А	個人	住宅建築	H27.11.16	H27.12.11	88.17m ²	4	
35	斎宮字楽殿2891-3	Α	個人	カーポート新設	H27.11.20	H27.12.1	1基	4	
36	斎宮字西加座2666-1	С	三重県知事 鈴木 英敬	計画調査プレハブ設置	H27.12.1	H27.12.8	1基	1	
37	竹川字古里503	С	三重県知事 鈴木 英敬	倉庫建築	H27.12.8	H28.2.12	29.81 m ²	3	
38		В	中部電力㈱松阪営業所	電柱建替	H27.12.7	H27.12.18	2本	3.4	
39		В	中部電力㈱松阪営業所	電柱、支線新設	H27.12.7	H27.12.18	1本、1条	3	
40		А	個人	カーポート新設	H27.12.9	H27.12.25	1基	4	
41	斎宮字笛川2345-3・15	Α	個人	太陽光発電施設設置	H27.12.14	H28.2.12	649 m ²	3	
42	斎宮字広頭3388-2	Α	個人	住宅建築	H28.1.5	H28.2.12	69.56m²	4	
43	斎宮字東前沖2485-1	A	個人	住宅建築	H28.1.6	H28.2.12	67.5m²	3	第185-15次調査
44	斎宮字楽殿2896-1	A	個人	住宅建築	H28.1.6	H28.2.12	63.76m²	3	第185-14次調査
45		С	明和町	案内板新設	H28.1.6	H28.1.26	4基	1	
46	斎宮字笛川1057-2·4	A	(斎宮跡·文化観光課) 個人	建物撤去	H28.1.7	H28.2.12	300m²	4	
47	竹川字祓戸710-3ほか7筆	В	近畿日本鉄道㈱	鉄柱補修	H28.2.2	H28.3.11	6基	3	
48		С	明和町	史跡整備に伴うカラー舗	H28.2.5	H28.2.10	L=160m	1	
\vdash			(斎宮跡・文化観光課)	装					
49	斎宮字牛葉99-1 字木葉山97-3	A C	個人明和町	住宅改築	H28.2.8	H28.3.11	29.81㎡	1.2.2	
50	竹川字古里505ほか7筆 		明和町 (斎宮跡・文化観光課) 明和町	Wi-Fi整備	H28.2.9	H28.3.11	8基、3条	1.2.3	
51	斎宮字篠林3195および地内	С	(斎宮跡・文化観光課) 明和町日本遺産	フットライト整備	H28.2.24	H28.3.2	8基	1.2	
52	竹川字花園682-1 	С	活用推進協議会	看板設置	H28.3.2	H28.3.10	1基	3	1
53	斎宮字篠林2356地先	В	松阪警察署明和町	道路標識建替	H28.3.7	H28.3.10	2基	3	i
54	斎宮字下園2810-1ほか3筆	С	(斎宮跡・文化観光課)	史跡整備	H28.3.11	H28.4.22	1033.65m	1	1
55	斎宮字楽殿2887-2	Α	個人	住宅建築	H28.3.15	H28.4.22	79.65 m ²	3	
56	斎宮字篠林3218-4	Α	株式会社 カチタス	電柱新設	H28.3.24	H28.3.29	1本	4	
57	斎宮字内山地先	В	明和町(まち整備課)	道路舗装	H28.3.28	H28.4.13	47m ⁸	3	
58	竹川字中垣内431-1	В	中部電力㈱松阪営業所	電柱建替·支線新設	H28.3.31	H28.4.13	2本、1条	3	

第5表 平成27年度現状変更等許可申請一覧

写 真 図 版



写真図版1 第185-1次調査 1 T北西(東から)



写真図版2 第185-1次調査 2 T南西(東から)



写真図版4 第185-2次調査 4 T全景(西から)



写真図版3 第185-2次調査 1 T全景(西から)



写真図版5 第185-2次調査 6 T全景(西から)



写真図版6 第185-3次調査 1 T東側全景(西から)



写真図版7 第185-3次調査 3 T全景(北から)



写真図版8 第185-4次調査 1 T全景(南から)



写真図版 9 第185-4次調査 1 T出土状況(東から)



写真図版10 第185-4次調査 2 T全景(南から)



写真図版11 第185-7次調査 2 T南側全景(東から)



写真図版12 第185-5次調査 1 T 西側全景(南から)



写真図版13 第185-5次調査 2 T全景(南から)



写真図版14 第185-6次調査 2 T全景(南から)



写真図版15 第185-6次調査 5 T全景(南から)



写真図版16 第185-8次調査 北側全景(北から)



写真図版18 第185-9次調査 中央部全景(西から)



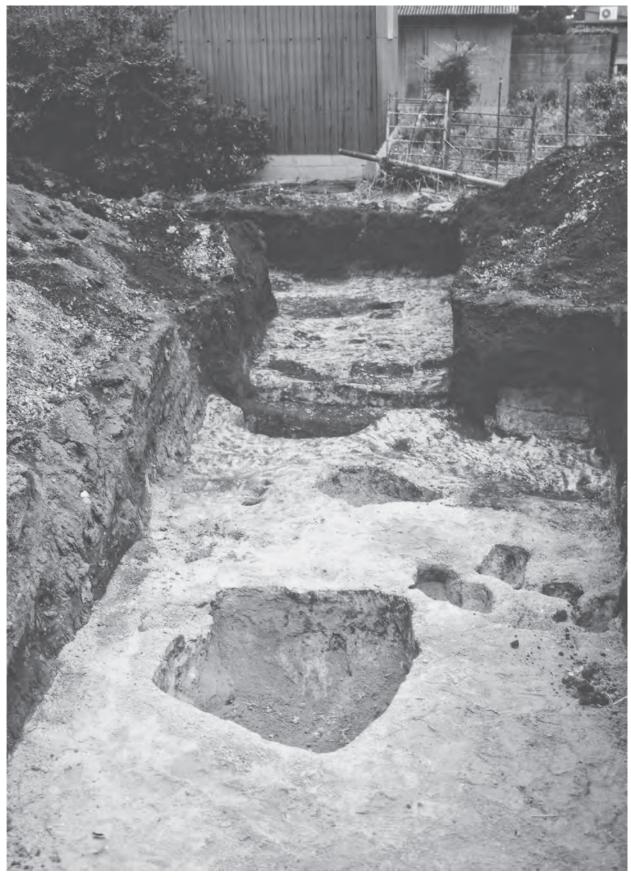
写真図版17 第185-8次調査 SK10820(北から)



写真図版19 第185-10次調査 2 T全景(西から)



写真図版20 第185-10次調査 6 T全景(西から)



写真図版21 第185-11次調査 SA10821 (西から)



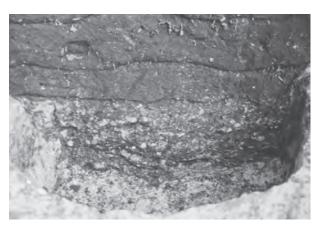
写真図版22 第185-11次調査 2 T全景(南から)



写真図版23 第185-11次調査 SA10821柱穴1断面(南から



写真図版25 第185-11次調査 SA10821柱穴3検出状況(西から)



写真図版24 第185-11次調査 SA10821柱穴2断面(西から)



写真図版26 第185-11次調査 3 T全景(東から)



写真図版27 第185-13次調査 1 T 全景(南から)



写真図版28 第185-13次調査 2 T全景(南から)



写真図版29 第185-14次調査 全景(北から)



写真図版30 第185-14次調査 溝群(南から)



写真図版31 第185-15次調査 全景(東から)

報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいにじゅうななねんどげんじょうへんこうきんきゅうはっくつちょうさほうこく										
書名	史跡斎宮跡 平	成27年度	見状変更緊	《急発掘調》	查報告						
副書名											
巻次											
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告										
シリーズ番号	33										
編著者名	宮原佑治 乾哲	也									
編集機関	斎宮歴史博物館	斎宮歴史博物館(調査研究課) 明和町(斎宮跡・文化観光課)									
所 在 地	〒 515-0332 三	〒 515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 № 0596 (52) 7126									
発行年月日	西暦 2017年3	月17日									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ-	一ド遺跡番号	北緯	東経。,,"	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因			
さいく5あと 斎宮跡	たきぐんめいわられう多気郡明和町をいくうたけがわる斎宮・竹川	24442	210	34° 31′ 55″ ~ 34° 32′ 30″	136° 36′ 16″ ~ 136° 37′ 37″	20150401 ~ 20160331	全15件 352.5㎡	史跡現状変更に 伴う緊急発掘調 査(史跡斎宮跡 第185次調査)			
所収遺跡名	種別	主な	時代	主な	遺構	主な		特記事項			
斎宮跡第185次	官衙		安・鎌倉・近世	土坑・溝 柱列	・ピット	灰釉陶器	須恵器 中世陶器 陶器				
要約	伴う小規模なも 物跡の可能性が	のである 高い柱列 土師器や	が、第185 を確認する 刻書土師器	-11次調査 ることがで 器など、奈	全では方格 きた。ま7	・地割造成期に た第185-10次	該当する大型	注宅新築・改築に型柱穴を有する建 遺構に伴う資料で ぶみられ、史跡内			

史 跡 斎 宮 跡

平成27年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成29(2017)年3月17日

編 集 斎宮歴史博物館 明 和 町

発 行 明 和 町

印 刷 光出版印刷株式会社